

南アルプス市立小笠原小学校学校関係者評価書

令和5年 1月24日 (火)
学校関係者評価委員会作成

第二回 学校関係者評価委員会

実施日：令和5年1月24日 (火) 午後1時～午後2時15分

会 場：小笠原小学校校長室

評価者：学校関係者評価委員

名取 昇 (小笠原区自治会長, 学校評議員)
齊藤 至 (元小笠原小学校校長, 学校評議員)
野中 雅子 (主任児童委員, 学校評議員)
島崎 進 (民生委員協議会会長, 学校評議員)
相原 千里 (元小笠原小学校校長, 学校評議員)
新津 岳 (元市教委教育部長・教育行政, 学校評議員)
飯久保一男 (校長) 志村 征俊 (教頭)

内 容

学校から提案の内容

- ①学校評価の方法について
- ②評価の全体的な傾向について
- ③教職員自己評価シートの内容と結果について
- ④児童アンケートの内容と結果について
- ⑤保護者アンケートの内容と結果について
- ⑥1 学校評価から見られる成果や課題, ならびに改善策について

《学校関係者評価書》

I 学校関係者評価委員から出された主な意見

- ・ 各教室に学校教育目標の掲示が児童にわかりやすい形でされているのが良い。
- ・ 休み時間終わりに教室に戻る様子や授業に取り組む様子から、落ち着いた態度で生活できていることがわかる。
- ・ 6年生の授業の中で、自分の考えを伝え合う中で、間違えた子を励ましたり、支えたりする姿から学校教育目標「自分を大切にし、他者を大切にする」ことが達成されていることが感じ取れた。
- ・ 様々な特性を持つ子どもたちがいる中で、職員がそれぞれの子どもに合わせて対応している様子がわかった。
- ・ 子どもたちに「自分の考えを持ち、その考えを伝える力」と「多様なものの見方」を身に付けさせてほしい。
- ・ コロナ禍でICT機器も上手に活用されているが、子どもとのつながりや関わりを大切にし、子どもの顔を見て話を聞くことを大事にしてほしい。
- ・ コロナ禍にあっても、様々な行事を工夫しながら行っていることはすばらしい。
- ・ 自治会として、子どもたちと地域の関わりが希薄化している。子どもの数が減少していることも影響しているが、地域の行事も中止になっている状況で何とか子どもたちとのつながりを強くし

ていきたい。

- ・ 来年4月からコロナが5類相当になった際には、元の生活様式に戻していくを考えたい。マスクも大人が外さなければ、子どもは外さないと思う。まずは、大人が変わること。
- ・ ICT機器の活用に伴って、インターネット上で情報を取捨選択できる力・危険を回避する力を身に付けさせてほしい。
- ・ 自己評価書のまとめ方について、アンケートの評価がC・D評価になった項目について、その要因を考察し、改善策を考え、取り組んでいくことも考えてほしい。

II 達成状況と改善策について

各アンケートの結果から、今年度も安定した学校運営がなされ、教職員と児童・保護者・地域との関係も良好であることがうかがえる。今年度の具体的な取り組みを継続させていくだけでなく、子どもたちの主体的な活動を保障し、達成感や自己肯定感を得られるよう、さらなる教育活動の充実を目指していきたい。来年度は新型コロナウイルス感染症に関わる生活様式に変化が起こることも考えられる。変化する生活様式の中にあっても、子どもたちを中心に、学校教育目標の実現のため、学校と家庭・地域が一体となり小笠原小学校の教育活動を推進していきたい。